

特集
アート
ノルマンディ
パリ、京都

CREA Traveller

クレアトラベラー

Spring
2026

煌めきの
ラゲージ
クォーツ腕時計
の世界

没後100年

モネの愛した光を辿る

La résonance des lumières de Monet

モネが見つめたノルマンディの色彩 アリエップ/ルーアン/オンフルール/ル・アーヴル/ジヴェルニー
日本に出会うモネ——32の美術館と105の名画

フランス
アートを生むパリ
大仙院/帝国ホテル 京都
KYOTOGRAPHIE 京都



シャンティイ城内のコンデ美術館。フランスの歴史を、フアンや、シムル、ジュリエット、フランス王と王后や、アン、そして、1000点の収蔵する。

Hauts-de-France

オードフランス

芸術の両翼を旅する



古代中世からモダン・アートまで、あらゆる時代の幅広い傑作に触れられる行先はオード・フランス地方を除いて他にないだろう。パリ以北から北海、ベルギー国境にまで広がるフランス北部を、アート・ホップする旅へ。

文=南島一浩 写真=橋本 英 協力=フランス観光開発機構 (france.fr/ja)、オード・フランス地方観光局 (tourisme-en-hautsdefrance.com)、ユーロフランス航空 (airfrance.co.jp)



シャンティイ城は百年、「フランス人の好きなセーヌメント」という国家教養の香炉で即位に選出。ブルボン家の隆華が代々、任じた城だ。

オーセンティックなアートの諸相を心ゆくまで堪能
「オード・フランス」という名称は聞き慣れないかもしれない。10年前、フランスでも平成の大合併があり、旧ピカルディと旧ノール・パド・カレが北フランスの行政州としてオード・フランスという一つの地方にまとめられた。

これは歴史的に見ても大きな出来事だった。農業主体だがパリの影響と貴族文化の強い旧ピカルディと、週ればフランドル伯領という別の国で、産業革命以降は炭鉱や労働者の地域だった旧ノール・パド・カレ。対照的な両者の一体化が進んだことで、この地の文化的な多様性と独特の美の興行が生まれた。オード・フランス地方の街々を訪ね歩くことは、美の多様性を味わう唯一無二の体験になる。

オード・フランス地方の伝統と前衛という両極端を象徴するのが、シャンティイ城とルーヴル・ランスだ。前者はフランス王家の傍系であるブルボン・コンデ公の元府邸で、この邸宅に取られたコンデ美術館は、フランスの貴族文化の結晶といえる空間。ナポレオン治世下でコンデ家の公子が処刑された後、散逸しかけた膨大な文化財をオマール公アンリ・ドルレアンが後半生に熱く買い戻し続け、今日のコンデ美術館の礎となった。ラファエロの聖母子画やティツィアーノなどイタリアン・ルネサンス、ホルバインやニコラ・プーサンら、幾多の名画が並ぶ欧州屈指の絵画コレクションを静かに鑑賞できる。

一方でシャンティイから170キロメートルほど北上したランス市内、ルーヴル・ランスでの体験は趣が著しく異なる。1793年に開館したパリのルーヴル美術館は、フランス革命時に王室や貴族の館から没収した文化的価値の高い美術作品を広く大衆に公開した。その膨大なコレクションを死蔵させないため2012年に求められた新天地、それがルーヴル・ランスだ。

一昨年にリニューアルした「ギャラリー・デュ・タン（時のギャラリー）」は、壁に沿って並べられた作品群の前を来場者が順に進んでいく従来の展示ではない。作品は年代順に川が蛇行するように置かれ、その間を来場者は進む。ゆっくり時間の流れに身を任せ、作品と向き合う。この新しい演出はスタジオAEROYが担当し、ルーヴル・ランスの建築を設計した日本のSANA A&Aも関わった。各陳列台の高さやミニマルなグレーの色合いは、計算づくという。古代の装飾品や彫刻は、様々な角度から眺められ効果的。ときにスフィンクスの列に迎えられる、はっとすることもできる。観る者に思索と没頭のひとときを与えるアート鑑賞なのだ。

さらに北に進めれば、地元の人々の生活や歴史に深く根ざしたルーベのラ・ビシニス美術館や、ヨーロッパの美意識の正統を結集させたルーブル美術館がある。

オード・フランスの地に育まれた多様な美は絶え間なく交わり、純粋な形で共存し続けている。その関わりこそが、オード・フランスの不思議な通奏低音といえるだろう。



5000年の時間軸で先史時代から古代文明、ルネサンス絵画から現代まで、290点の作品が国産品は、質、量ともに特徴。エジプトやギリシャの彫像、中世のノーフなど、異なる文明を見比べるの一場だ。

1 新道成風の可憐
のよさな透りガラスが
える道徳。地元の
人で開くウエーブ
アム・カフュはリアル
の名画「メルク」の
文庫が経営してい
る。2 藤田幸治の
有名な「カフュ」は、
成徳のポンピドゥ
センターから委託
されて公開中。



— 体感の美 — Roubaix ラ・ピシーヌ美術館

元は外資者の娯乐的な娯楽施設を目的に建てられたプール。美しいアーチドコ建築は、像彫刻や礼拝堂の造りを模したもので、プールから美術館への改装は、オルターも斬金から美術館にした建築家の人、ジャンポール・フィリップソンが手がけた。プロレタリア芸術のみならず、モダニズムの名作も多数収蔵している。



ピシーヌはプールのこと。太陽をイメージしたスタンドグラスは、プールだった時代のオリジナルの造りだ。

La Piscine-Musée d'art et d'industrie André Diligent

ラ・ピシーヌ - アンドレ・ディリジャン芸術産業美術館

DATA 23 rue de l'Espérance, 59100 Roubaix
☎03 20 66 23 67 roubaix-lapiscine.com
開館 水曜 11時～18時、金曜
～20時、土曜 13時～18
時 休館日 1/1, 5/1, 7/14,
8/15, 11/1, 12/25, その他公
休日 ①企画展開催時11時、
それ以外18時、全曜10時～
20時開館

1900年代後半から1930年代
前半にかけて市民プールの建
築を推進した左派市長、ジャン
ポール・フィリップソンの像。



年代・地域ごとに分類され、解説も見や
すい展示室。左はオランダの画家ア
ィルク・ボックの「無謀凶犯」。

Palais des Beaux- Arts de Lille リール美術館

DATA Place de la République 59003 Lille
☎03 20 06 79 26 pba.lille.fr 朝日曜14時～18
時、水～日曜10時～18時 ④火曜、1/1, 5/1, 7/14,
11/1, 12/25 休7時、毎月第1日曜は無料



— 正統の美 — Lille リール美術館

美術時代から古代エジプトに始まり、イタ
リアやドイツのルネサンスから印象派ま
で、所蔵する美術品の守衛範囲の広さは
国立美術館レベル。とくにヒロニム
ス・ボスやブルーゲルらフランドル絵画
から、ゴッホやスヘイン、バロックの厚み
は圧巻。元フランドルの中心都市リール
の誇りを強く感じさせる場所だ。

ブルーゲル(子)の複写。実は14
年前はベルギー国立美術館にあり、
アントワープなどフランドル圏都
市に複写が数多く存在している作品。



1 17世紀の仏蘭戦争後、ルイ14世陛下でヴェーバンによる繁華化が進んだフ
ランドル各都市の模倣は、前長時代の繁華学やアートオブ・オブジェの重要な証
書。2 本館の作品はヴェーバン時代の02点(ロンドン国会議事堂)がある。

— 愉悦の美 — Chantilly コンデ美術館

元はフランス71世の重臣が基礎を敷き、ブルボン王家の従兄弟
にあたるコンデ家が築いたシチュー、代々伝わる絵画や宝物な
どのコレクションを公開。ルノーと設計のフランス風画といひ、
建築は真珠そのものだがルーヴルやヴェルサイユ、リュクサンブール
とも異なる、落ち着いた華貴気での趣向は独特だ。



コンデ家に伝わるラファエロの「三美神」。
後にカラッチやルーベンスも同じテーマを
とり上げたルネサンス名画。



1 ラファエロの顔の似顔に見えるイカベルグ・ノボの復讐子
像。2 中央がラファエロの「ロケットの聖母」。右は15世紀フ
ランスの有名な美女、シネネッタ・ヴェスプッチ。モナリザに比肩
する傑作といわれる。左はアン・ド・メの各肖像。

Château de Chantilly シャトー・ドゥ・シャンティイ

DATA 7 rue du Connétable 60500 Chantilly
☎03 44 27 31 80 chateauduchantilly.fr 朝日曜10時～17時
(大観覧12時～、紅葉～18時)、夏季10時～18時(シチュー、大観覧
とも、紅葉～20時) ④火曜 休18時

1926年に一度消された9カラムのロ
ーズ・ダイヤモンドの複製。2016年10
月17日から約4ヶ月間本館を公開。



4つの美が響き合う芸術の館

庭園設計家カリス・スミス・バックが手がけた庭は、フ
ランス・バロック様式、日本庭園に奇想を得ている。



Musée du Louvre-Lens ルーヴル・ランス美術館

DATA 99 rue Paul Bert 62300 Lens
☎03 21 16 82 62 louvre-lens.fr 朝10時～18時、紅葉17時～21時(5/15～9/15)、
8時～19時(3/16～5/14) ④火曜、1/1, 5/1, 12/25
無料(ギャラリー・デュ・タン、バグフィヨンドゥ・ヴェール)、12€(全館観)

1 ギャラリー・デュ・タンにはアルチンボルドの《四季》傑作が297点に増え、同時に「ルーヴ
ル・オリエント」が、2 ナポレオン時代に建てられた、紀元前5世紀のアナキの像、3 地下フロアはス
トックスペースの椅子や修復作業が、保護ガラスを通じて見られる造りになっている。

— 思索の美 — Lens ルーヴル・ランス美術館

2012年12月開館。日本の建築事務所SANAAが建築を手がけたことで知られる。フ
ランスの美術館では珍しいガラスの建築で、2010年の世界遺産
登録で常にトップ3を保つ。一昨年、美しいを
めたギョーム・デュ・タンは、斬新な展示方法
で話題に。館内の床の一部には草間彌生の
の新しいモザイク作品も埋め込まれている。



アートがパブリックで
広く共有される感覚

オー・ド・フランスの美術館に共通するのは、地元の人々の多さ。今の暮らしに繋がる歴史や物語を愛するがゆえの、賑わいと配膳が濃密に漂う。例えばラ・ビシエヌ美術館。アール・デコの建物は、織物と長靴の街だったルーベの労働者の生活環境を改善すべく1932年、市営プール兼公衆浴場として建てられた。それが修復と改装を経て2011年、美術館に生まれ変わった。産業で潤った街ゆえ、実業家からの寄贈作品も少なくない。ルーベ美術館も同じく市立美術館だが、さすがに元フランスの中心都市の一つ、スペインや北方ルネサンスの傑作も多ければ、19世紀以降の名作も多彩。中世から近代にかけて、またフランスに属していなかったリールは、ベネルクス三国の領土文化的な一体感の強い街でもある。

異質のもの同士が絶え間なく交わる、古典と前衛の調和はヴィラ・カヴロワにも認められる。アール・デコ時代に建設された、この「モダニズムのシャトー」が往時の姿を取り戻すまで、修復に20年近くが費やされた。

アンリ・マティスの故郷、ル・カトールカンブレジにも画家個人に捧げられた美術館がある。写実主義的な習作もあれば、対照的に晩年に歩くことが難しくなった際、杖でベッドの天井に彫刻で描いた簡潔な私的な表情まで、見どころは多い。多彩な美の表情に加え、芸術家の懐に入り込むような温かさも、この地方ならではだ。

オー・ド・フランス 芸術の森のさらに奥深くへ

街の中心部や主要都市ではないものの、まわり道してでも寄る価値のある
珠玉の美術館がこの地方には少なくない。その一部をご紹介します。

Villa Cavrois

ヴィラ・カヴロワ

佇まいからしてダンディな建築

ルーベの高級住宅街、クロワ地区に1932年に建てられたモダン建築の傑作の一つ。設計は近年、再評価の進んだアール・ヌーヴォー後期からモダニズムの建築家、ロベール・マレステイグランス。家主はマリーのメゾンも採用するルーベの高級牛乳メーカーの社長ポール・カヴロワだ。妻と7人の子供と暮らすための邸宅で、徹底して採光と暖房、時計やスピーカーの同調にこだわった細部が、驚くほど先進的。

DATA 60 avenue John Fitzgerald Kennedy Croix
☎03 20 73 47 12 villa-cavrois.fr 巻10時~18時(入場券付~17時15分) 休月曜、1/1、5/1、12/25 券11€

十数年間の修復し、厳選した家具の再取替や音響を経て、2015年より一般公開。キッチンには広く開放的な通り。



1 大理石や木材、アルミなどを用いた家具も、マレステイグランスのデザイン。2 建築外装は煉瓦張り。設計時の水平線は一度した元の場所に戻ってほぼ正確。3 特等室を兼ねたメインホール。半円部分は暖房。全体的に幾何学的で、四角四面のモチーフの組み合わせは当時のラシオナリスム(合理主義)の典型ながら、温かみある雰囲気。



設計当時、ヴィラは8人家族用の通りで、写真はゴールの橋たらの子孫邸。後うごごに部屋のテーマは異なる。



1 3面にフィギュアの代表作である『巨大な顔』のブロンズ像。真下に本人の自画像。2 数回やコッチングの技法や道具の使い方を示す展示。版画の道具は日本製も多い。第2のマティスを育てただけでなく、作品に親しみやすさ。



マティスと彫刻の美術批評家、彼の手に持ったタイムとスタンドグラスを自宅の食堂に寄贈。

Musée Henri Matisse

アンリ・マティス美術館

画業だけでなく画家の人生そのものを展示

マティスは「私が夢見るのは、奇術と純粋さと静けさの芸術」と述べたが、生誕地にあるこの美術館がまさにそう。アラスやリールから時間差の小さな街、ル・カトールカンブレジの城館に、生前の本人や家族から譲られたプライベート・コレクションが収められている。習作期の素描や佳作が多く、石膏像の型の変遷など制作の舞台裏まで、画家の等身大の姿を感じられる。

DATA Palais Fénélon place du Commandant Richet
59080 Le Cateau-Cambrésis
☎03 59 73 38 00
museematisse.fr @10時~12時30分、14時~18時、土~日曜10時~18時 休火曜、1/1、5/1、11/1、12/25 券8€

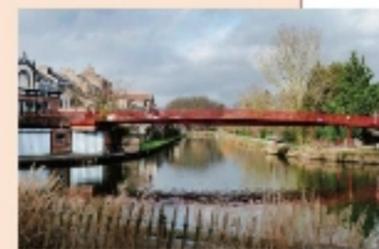
1952年に本人が生誕地に亡き作品の寄贈を希望する旨を伝えたのが設立のきっかけ。4素顔に絵画に版画、彫像やグラフィックなど2000点が素晴らしい状態で保存されている。



別荘のシャンティイ城は息をのむような美しさ。城の一部は革命時に一時解体されたが19世紀に再建。



馬術は数世紀的なアートの一つ。シャンティイには『生ける馬の美術館』があり、乗馬を楽しむ人と観客にすれ違う。



アミアンは「北仏のヴェニス」と呼ばれた水運都市。ソム川を利用した運河があることに定評。ボート観覧も可。

アミアンの名物お菓子をお土産に

創業1872年、アミアンで6代続くスイーツの名店。自家製のワルモンギューヴ(子栗型マシュマロのチョコレート菓子)やジャムも作り、名物は創業から変わらないレシピのマカロン。スペインに自社のアーモンド農場を所有するほど一次原料こだわる。一般的に知られる「ワルモン」は異なる質感と味になった前がわり、しかしマカロンに役を担ぐ材料は絶えず。リトルアラスの糖、昨年から99%にも高糖を採集中。1個入り3.9€

Jean Trogneux ジェントロニョ

DATA 1 rue Delambre Amiens
☎03 22 71 17 17
trogneux.fr
券9時~19時 休日曜、祝日



アミアン大聖堂。中世のアミアンは石の彫刻の産地として栄えていたため彫刻の達人、建築師が輩出した。



尖塔の高さだけでなく一等塔の屋根が大型金の中心に至る大聖堂の屋根「アミアンのぼろ」にも注目。

Amiens, Lille, Arras, Chantilly 北部のアートな街巡り

大気が今ひとつでも街歩きを
楽しめないともったいない

フランス映画最大の興行収入を記録した「シュティイの国へようこそ」(2018年)に有名なシーンがある。南仏から車で走ってきた主人公がオー・ド・フランスに入った瞬間、嵐のような雨に打たれ視界が悪化し、ぶつくてしまった相手が物語のカギとなる車主役……という出会いの場面だ。

北フランスの天気がしばしば悪いことを指摘する演出だが、その分、人々はカフェやエスタミエなど屋内で社交やお味りに興じ、オー・ド・フランスの街には温かい光が灯る。連日目の長い春夏は、太陽が覗いていればこそとばかり、表にうって出る。

要は美術館だけでなく、街にもアートの気配が漂うのがオー・ド・フランス。壮麗な街景に見とれる間も、車の往来にはくれぐれも気をつけて。

17世紀、丸屋根のプロポーションが
緻密に決められていたアラスのル・
エニ広場。統一感が美しい。



アミアンのガンベッタ広場の時計塔は、ジュール・ヴェルヌが同時代のオリジナルを200年に忠実に再現したもの。



アミアンの旧都政庁には
官設の古本市が、バンド
ダンスの本場なので夜
間もボスターも充実。



19世紀末からベル・エポック
期に人気があったイラスト新聞
「ルージュ・ジュナル」のバック
ナンバーが豊富に。





1 一見してホテルと合点がいかない外観。右の白壁が大ホールと礼拝堂で、左の赤瓦ファサードの横には修道院の入口で現在のメインエントランスが。2 客室にはグッド・デザインのスタイル。



修道院のころは奇麗なしつとり入口だった場所が、今はロビー兼バーラウンジになった。



3 5世紀以上も前の場として、ホスピスの中心であり続けた礼拝堂は、今日その威容を保ったまま。最近の修復が加えられた状態で保存されている。4 スペルブールに広がる回廊を利用したアートギャラリー。地元のアート系を中心に、自作も展示されている。2016月ごとに入れ替わる。5 “エルミタージュスイート”は伝統的なマンナード屋根で90㎡の独立スペース。一泊350€。6 同スイートのアンティークな収納棚。7 バスタブ付きの浴室は広々と快適。

DATA 224 rue Pierre Maury Lille
☎03 20 85 30 30 hotelhermitagegantois.com
客室数/89 料金(1室)/195€~(2名利用)

Amiens Hôtel Marotte

オテル・マロット

元・国立銀行の建物が
家族経営のスパ&ホテルに

海外やアルプスのリゾートホテルで経験を積んだ家族が、故郷のアミアンに戻ってホテル経営をスタート。通りを誇った2棟で構成されるホテルで、メイン棟は2012年に、スパを備えたアネックスは2011年にオープンした。後者は元フランス国立銀行の建物を改装したもの。パリから電車で1時間半、車で2時間なので、スパ利用と組み合わせると週末のんびり過ごすに最適な宿泊客も増えているとか。ホテル向かいのバティスターもこの一家の経営で、シックなサロンで寛ぎながらスクイーズやアフタヌーンティーを楽しめる。



1 日中はティーサロン、夜はシャンパン・ニューラウンジ。2 ロフトスタイルの“スイートカテドラル”の窓からはアミアン大聖堂を眺める。一泊345€

DATA 3 rue Marotte Amiens
☎03 60 12 50 00 hotel-marotte.com 客室数/33 料金(1室)/166€~(2名利用)

アートホッピングの拠点にしたい名ホテル

閑静なシャトー・ホテルから、リニューアルされた歴史的建造物、さらには小粋なブティック・ホテルまで。オード・フランスには土地柄と韻を踏みつつ、個性的なホテルが数多く存在している。



3 ミニマム過ぎず適度に華やかさを感じる宮廷風のセダンな内装。4 朝食ルームは16トド劇場の造りで、左右対称の豪華の真がステージとして一段高になっている。



シャトー・ド・ゴール空から20km程度だが、滑走路の地味緑上にはないのとても静か。

Chantilly Intercontinental Chantilly Château Mont Royal

インターコンチネンタル
シャンティイ・シャトー・モン・ロワイヤル

ミニマリスト過ぎない
余白ありの空間が心地いい

1年半前にインターコンチネンタル系列として生まれ変わった、シャンティイでもっとも新しいハイエンドホテル。元々こちらはモン・ロワイヤル城と呼ばれ、20世紀初頭にオーケストラ指揮者にして作曲家ドビュッシーの邸だったフェルナン・アルフェンが、妻に贈るためにルイ16世様式の復古スタイルで建てたもの。そのため内装はミニマリスト過ぎず適量過ぎず、余白を残した心ばい装飾で統一されている。朝食ルームである「オペラ」や、ビストロ「ストラディ」も、音楽にちなんで名づけられているが、オペラ・ガルニエを参考にしたという左右対称の空間は音響にも優れ、ミニコンサートや演奏イベントも適宜、開催しているという。モダンな別館と重厚感ある本館とがあり、10階のジュニアスイートと5階のスイートはほぼすべて木製に位置し、2階(日本の3階相当)の部屋ならシャンティイのドメーンを静かに見下ろすビューが楽しめる。また森を望むサウナ、プールにジムも完備し、スパメニュー付きの滞在プランも充実している。

DATA Allée des Marnonniers Route de Pleilly La Chapelle-en-Serval
☎03 44 54 50 50 chantilly.intercontinental.com
客室数/100 料金(1室)/224€~(2名利用)

6 「ストラディ」は夏の権宮のような装いの情景をあしらった装飾、裏に隠れるバー・カクテルが見事。8 グラスジャンパー・ニユはドレープ21C、シャトル・ケリー・ロウの合わせ32C

“スイートロワイヤル”の寝室。静寂が響かされた空間。一泊約1,200€~(2名利用)。



1 “スイートロワイヤル”のサロンスペース。ほか、“スイートロワイヤル”も文中のスイート6室と併存。2 閑静な森を見下ろすバルコニーの眺め。





1 家鴨はローズマリーやタイムで香り付けでロースト。切り分け後にテーブルで見せてくれる。2 野生でない子鴨ならではのやわらかい肉質を、絶妙なロゼの焼き加減で噛みしめる。つけ合わせは自然な甘みのあるパプリカ。



キッチンで陣頭指揮を執るディエゴ・デルベック氏。



帆立貝の塩菜(手前、右)と根菜系の冷製スープ仕立て。5皿100€、7皿195€、料理に合わせて各ワインは168€~195€

Rozo ロゾ

リールを代表する若きシェフの獨創性を味わう

シェフのディエゴ・デルベックはオードフランス地方で2つ星を20年以上も守り続けたシャトー・ド・ボローニュで修業した後、パリのブラザ・アテネ、ホテル・ムリスで経験を積んだ。2017年にパティシエールのパートナー、カミーユ・ペイヨーと共同オーナー兼シェフとして「ロゾ」をスタート。リール界隈では現在唯一となるミシュラン2つ星を獲得するなど、オードフランス地方でもっとも注目される才能だ。以前は印刷工場だった建物を改装し、キャットウォークの中2層テラスでアペリティフを楽しんだ後、テーブルに着く。食材の秘めた可能性を引き出す味づくりに加えて、ミニキャベツやクレソンなど地元産の食材を巧みに織り込む一方、コシとカリや南米起源の肉質のやわらかい家鴨など、エキゾチックな食材にも目が無い。しかも軽やかな彩りに加え、同じ食材を冷とホット両方で供することも取わない、気遣いも際立つ。一品一品が美味であるだけでなく、リールの土地柄を語りかけるナラティブを兼ねた、魅力的なテーブル体験が可能なお店だ。

DATA 34 rue Raymond Dorsin Marquon-Barzai
☎03 82 27 72 82 restaurant-rozo.fr 休火・水曜19時30分~20時30分、木~土曜12時15分~13時、19時30分~20時30分
休日・月曜、8月中旬に夏季休業



メインの家鴨の後に供されるフィッシュグラのミニカルドにキャベツと野菜のクビオリを、ローストしたソースで。



3 元印刷工場とは思えない、ガラス仕切りのオープンキッチンと距離の近いテーブル。4 外観はほぼ工場のまま。住宅街にありながら、このように静かだ。

首府リールで美味しいもの探し

オレンジ色の灯りが薄っすら漏れる小さな扉の入口。エスタミネをはじめリール界隈のお店の外観は、まったく目立たない。けれども扉を開くと今度は気圧されるほど、店内の温かな雰囲気や包み込まれる。ようこそ北へ!



Estaminet La Cour de la Ch'tite Brigitte

エスタミネ・ラ・クール・ド・ラ・シュティット・ブリジット

大衆に愛される味を地ビールで流し込む快感

リール旧市街にあって伝統的スタイルのエスタミネの雰囲気や今に伝えるお音がこちら。切り盛りしているスタッフもお客さんも若く活気にあふれている。地元の肉体労働者がリフレッシュのために訪れたのがエスタミネの源流なので、定番メニューは高カロリーかつ、地ビールも充実している。食事2皿とデザート付きのセットなら、ビールまたはワインが2杯ついてくるという気の利くメニュー設定も嬉しい。前菜のシャルキュトリの盛り合わせは揚げソーセージとフリカデルに馬のソーセージ、牛タンのテリーヌなど、珍珍ばかりだが、意外と温平くなくて小味が利いている。メインの「ヴェルジュ」という料理は、ホルモンのマロゾールチーズのゼラタンで、サラダとフライドポテト付き。エスタミネを訪れるなら必食だ。いわば、飲める口の人にとっては、いくらでも食べ、飲み続けられる形態のお店で、数筆の疲れたなど一気に吹き飛ばす、そんなお味と量なのだ。

1 前菜。右からフィッシュグラと牛タンのテリーヌ、シャルキュトリ。北仏の名産チーズであるマロゾール、馬のソーセージ、リール風子豚のヴェルジュ、子豚のヴェルジュ、フリカデル、にしんを巻いたロールモップ。2 メインプレートは上からヴェルジュ、アンドゥイネック。3 これらにデザートとお酒2杯をセットで42.90€



DATA 61 rue de la Monnaie, Lille
☎03 45 16 80 47 courdelachitebrigitte.com
営業11時30分~23時30分 団体



4 親交の深いテーブルはお客さんであふれ、楽しい通話を大きな声で出だして話したらかたしなげ動かし回る。5 地ビールはトップでなくても新鮮なのでボトルも多数。

Keyword: エスタミネとは?

北仏からベルギー・ワロン地方のハブハウスで、地ビールと地元の定番料理を出す田舎風のお店のこと。昔は労働者の憩いの飲み場として発達し、飲食以外にカードやボードゲームが楽しめた遊び場的存在で女性客はいなかった。今では北仏の風物詩の一つとして地元客から観光客まで集まる場所だ。

リールで買えるオードフランスの定番土産



お土産の定番がリール代表スイーツとして思い浮かべるのは、創業1677年の老舗「メル」のメーブル。フランス産のワッフルで、パリにも売られている。マダガスカル産バナナのペーストだけを残した糖子模様の入りの生地を口に含むと、香ばしくやわらかな歯ごたえで、いわゆるブリュッセル風ワッフルとは異なる繊細さがたしなる。フランダースやキャラメルなどのフレーバーも選べるが、まずは定番バナナペーストがおすすめ。店頭売りは1個3.30€

Méert メール

DATA 27 rue Esquermoise Lille
☎03 20 57 07 44 meert.fr 毎月曜14時~19時、火~土曜10時~19時30分、日曜9時~19時 団体



彩度の色彩や味は、すべてを堪能しないのが、メールのページェ内装。

L'Estaminet Gantois

レスタミネ・ガントワ

エスタミネは自分のスタイルで選ぶ

エスタミネとは今や、屋台やシェフやテレビのリアリティ番組で有名なスターシェフが、現代風にアレンジすべき主題でもある。ホテル「レルミタージュ・ガントワ」(p.127)付設のここでは、まさに「現代風」に再解釈した味を楽しめる。いずれのエスタミネにも共通するのは、可能な限り地域内で生産された素材を用い、サステナブルかつ古典的なエスタミネ料理を提供すること。ここはホテルらしくシャルボナッド・フランド(牛肉のビール煮込み)のような定番プレートも、新質少なめのさっぱりした味づくりで、エスタミネならではの味を上品にアップデートしている。またゲンツ起源で根菜と魚または鶏肉の煮込み料理であるワールツギーも、あえてローストしたタラと合わせ、ビーツのチップスを添えることで洗練した味わいに。未来に繋いでゆくべき伝統の味として場所だからこそ、利用客や時代に合わせて進歩しているのだ。



DATA 224 rue Pierre Mauroy Lille
☎03 20 85 33 30
hotelemmitagegantois.com
営業12時~13時45分、19時~21時30分 団体

内装は質素でも、木の調子に合い、豪華なザンク(巻物)のカクンクはエスタミネの基本。



リールの大広場を築下する西
工会会館のクワワ(鐘楼)は
高さ70mから街を見守る。

やわらかな鐘の音色にふり返る
濡れた敷石、鐘楼の高み

